

英国助産婦学生日記

その1



合格通知が届くまで

日方圭子

英国・サリー大学助産課程学生

はじめまして。2000年秋からイギリス・サリー大学で助産婦の勉強をしています。看護・助産の経験もないまったくの初心者なのですが、ダイレクトエントリーという手段を見つけて3年間のコースに挑戦することにしました。私の経験を通して日本の助産婦教育とはまた違う、英国の教育現状をお伝えできれば、と思います。

南アフリカで決意

私は99年末までの5年間、NPOの仕事で南アフリカに赴任していました。地域開発、アフリカ諸国からの難民に対する職業訓練のプロジェクトを主に行なっている「日本国際ボランティアセンター(JVC)」で経理を担当していました。

「助産婦になりたい」とは10年近くも前から思っていたのですが、日常生活に流されて最近までほとんど実現不可能な「夢」になっていました。助産婦への道を現実的に考えるようになったのは、仕事で滞在していた南アフリカでの経験や、そこで出会った人たちのおかげだと思えます。

その中でも特に「英国の助産婦教育はいいわよ。勉強するなら英国ね」と南アフリカ人の助産婦や、英国で看護婦資格をとった日本人、飛行機で隣りの席だったマレーシア人助産婦に薦められ、ダイレクトエントリーの存在を知ったことが直接の要因になって「これならできそう」と、「イギリスでダイレクトエントリー3年間」と目標を定めました。99年のはじめのことです。

1999年夏 情報収集

けれど、どこにどう連絡をとればよいのかわからず、もっぱら学校の情報集めにはインターネットを使いました。大学のホームページ、コース概要を調べ、直接資料を取り寄せました。

英国国内でも助産婦教育を統括している機関が異なるらしく、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドと別々に入学申込み手続きをするようです。イングランドの看護/助産のディプロマコース(卒業後取得できる助産婦資格の1つ)の入学手続きを一括して行なっている機関 MNAS に入学願書一式を送ってもらい、助産ダイレクトエントリーのある22校のうちから、ロンドンからそう遠くない4校を選ぶことにしました。

10月 願書提出

入学試験はありませんが、希望者は書類選考と面接の2段階で審査されます。MNAS 共通の入学申込み書はかなり細かく、学歴(科目と成績まで)、職歴、動機作文、学校の担任または雇用者からの推薦文、過去2年間の欠席日数、英語テスト結果(TOEFL または IELTS)などを記入する欄があります。定員に比べてかなり多数の申込み者がいるようなので、いかに自分が助産婦に向いているかアピールできることが、第一審査のかぎになるようです。

願書の説明書を読むと、高校卒業資格をもっていない人や外国人にもできるだけ公平な機会

を与えるように心配りがされているように感じました。願書受付開始直後の10月初めに、書留郵便で入学申込み書を送りました。

2000年2月 書類試験パス

申込み書を出してから数か月経った2000年2月、ディプロマコースを申し込んだ2校から面接試験の案内が送られてきました。書類試験に通ったのはうれしいのだけれど、面接ははったりはきかないしどうしよう、とパニックに陥っている私を、「自分をアピールする機会が与えられるなんてラッキーじゃない。テストじゃ見てもらえない部分まで、じかに話せるんだから」と友人たちに励まされて、ここはがんばらないと、と覚悟が決まりました。

その頃季節柄、英国助産婦のメーリングリストに、私と同じように入試面接に向かう人からのリクエストで「予想される面接の質問」が先輩助産婦や学生から送られてくるようになり、同じ境遇の入学希望者たちのメールと先輩たちからのポジティブな反応に勇気づけられました。質問は大学によって様々なようですが、皆が共通してのアドバイスは「ありのままの自分を出して」でした。同じメーリングリスト内に、面接1校目の在生を見つけて、「これから面接に向かいます。いよいよ夢に近づいてきた感じでとても楽しみだけれど、とても緊張しているので、なにかアドバイスを！」とメールを送ると、「面接官は大抵、とても素敵な助産婦で教師の人たちだから大丈夫よ。緊張しすぎないで！」とすぐに返事が返ってきました。その他、在日・在英の日本人助産婦の方々にも、とても暖かくて力強い助言をいただきました。

3月 面接

いよいよ3月の始め、面接を受けにイギリスへ向かいました。面接は書類選考に残った希望者を一度に約20人ずつ集めて、数回行なうようです。まず全員でコースの説明を聞いた後、数



南アフリカ・ジョハネスバーグのJVC事務所にて、
左が筆者。同僚のドウドゥ、シポと。

名のグループに分かれて集団面接、ディスカッションがあり、そのあと個人面接と流れるのが基本で、大学によって簡単な計算テストやエッセイを書かせるところもありました。

面接では予想していなかった質問も出されましたが、できるだけ素直に答えつつもです。例えば「どうして助産婦になりたいのか。どうして自分が助産婦に合っていると思うのか」「どうしてイギリスで勉強したいのか。日本の教育との違いは?」「これまでの学歴、職歴が助産婦の仕事にどう生かせると考えるか」「学生生活3年の半分以上が病院、診療所での実習になるが、これと私生活をどう両立できるか」「早番、遅番の他に夜勤もあって不規則な生活になり、社交の機会を失うことになるけれど、覚悟はできているか」等々の質問と応答が20分ほど続きました。個人面接中、「緊張しないで、相手は助産婦なんだから」と自分に言い聞かせていましたが、話しながらも、緊張するとこんなに自分はパニックになってしまうんだ、と驚くほどあがっていました。

そして合格、春がきた!

面接から20日経ってサリー大学から合格通知が届きました。集団面接ではディスカッションに入っていけなかったし、個人面接では本当に緊張して英語になっていなくてあきらめていたところだったので、驚き喜びがひとしおでした。